

連続立体交差化で踏切事故・渋滞及び地域分断を解消 (千葉県鎌ヶ谷市)

事業者：千葉県 県土整備部 道路整備課

II-1 電力等エネルギー供給の確保



対策後



II-2 食料供給、ライフライン、サプライチェーン等の確保

対策名：No.141 全国の踏切道に関する緊急対策

事業名：新京成線連続立体交差事業 (鎌ヶ谷大仏駅～くぬぎ山駅)

- ポイント
 - 3か年緊急対策における連続立体交差化により踏切解消を早期実現
 - 災害時の踏切の長時間遮断により救急活動や人流・物流等へ及ぼす影響を回避

地域の概要・課題

新京成線は、千葉県北西部の松戸市、鎌ヶ谷市、船橋市、習志野市の4市にまたがる、松戸駅と京成津田沼駅を結ぶ路線であり、年間1億人以上が地域の足として利用しています。

鎌ヶ谷市中心部においては、新京成線の踏切に起因する交通渋滞が慢性化しており、国道464号(緊急輸送道路)の自動車ボトルネック踏切である北初富1号踏切では、最大860mの滞留長が発生していました。

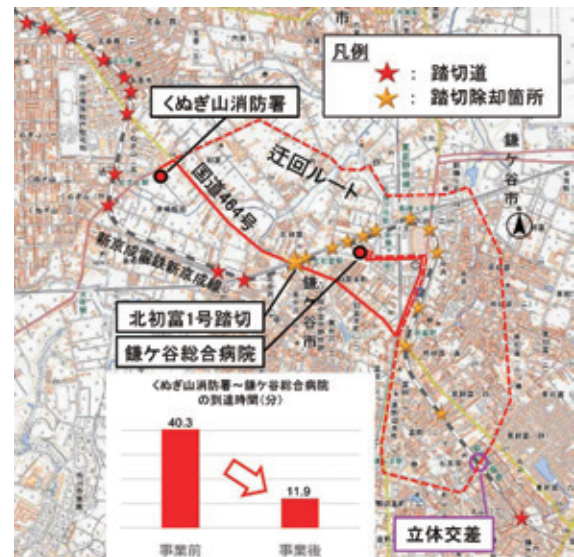
事業の概要

救急活動や人流・物流等に大きく影響を与える可能性がある踏切であるため、3か年緊急対策として事業を実施しました。

令和元年12月に高架化を行い、北初富1号踏切や新鎌ヶ谷2号踏切をはじめ、12箇所踏切が除却されて、道路と鉄道の連続立体交差化が完了しました。

【見込まれる効果】

鉄道の高架化により、災害発生時に踏切が長時間遮断されることがなくなり、緊急車両等が目的地まで大幅に迂回することを回避します。



II-3 陸海空の交通ネットワークの確保

II-4 生活等に必要の情報通信機能の確保